



緊急事態宣言解除後の生活

第25回

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

日々新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のニュースを見ない日はなく、もう疲れてきたという方も多いと思われます。三重県はこれで28日間新規患者が報告されておらず、疫学的に言えば、県内における感染伝播鎖は断ち切られたということになりますが、世界では5,106,686例(333,001死亡)が報告されており、未だに減少傾向は見られていません(図1)。一方日本では、2020年5月22日16:00現在で、16,885例の感染者(726死亡)となっており(図2)、確実に減少しています。

図 1. 世界における新規患者発生数

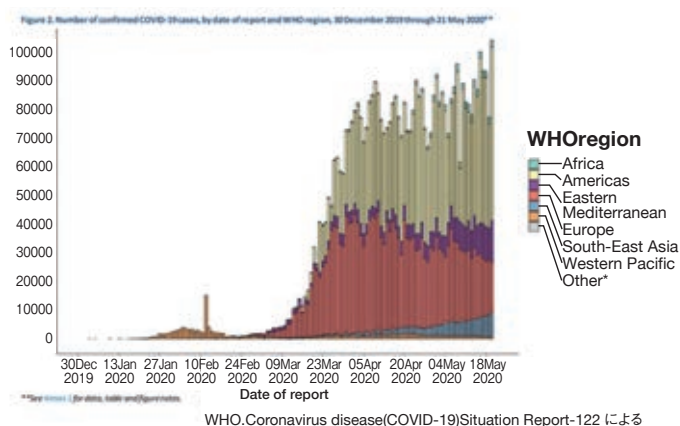
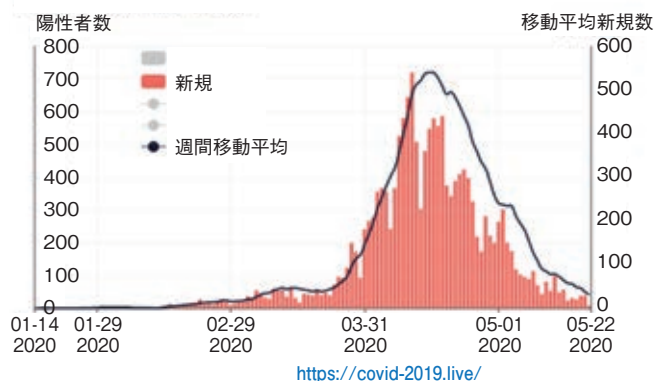


図 2. 日本における新規患者発生数

日次新規・累積陽性者の推移



令和2年4月7日に埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県及び福岡県を対象として緊急事態宣言が行われ、4月16日に、上記7都府県とに加えて北海道、茨城県、石川県、岐阜県、愛知県、京都府、そして人の移動等による感染拡大を予防するために、全都道府県について緊急事態宣言は拡大されました。5月4日には患者数は減少したものの、地域や全国で再度感染が拡大すれば、医療提供体制への更なる負荷が生じるお

それもあったため、5月31日まで延長されました。しかしながら、一転して5月14日には、北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、京都府、大阪府及び兵庫県を残して解除となりました。そして、5月21日に改めて感染状況の分析・評価を行い、関西地区が解除となり、残るは北海道、埼玉県、千葉県、東京都及び神奈川県となりました。そもそも緊急事態宣言というのは、見えない感染伝播経路を可能な限り減らして、通常の患者の探知から接触者の管理ができ、重症者を適切に治療できるレベルまで戻すと言うことが目的でしたので、この原稿が出る頃には残る都道府県においても解除されているものと思います。

この感染症は発症2日前から感染性があり、発症6日目以降は感染力が大きく低下すること、小児に少ないのは鼻粘膜でのACE2の分布が成人に比べて少ないことなども報告されており、これまで未知とされてきたSARS-CoV-2についても新たな知見が徐々に増えてきています。しかしながら、これらとともに、このウイルスはかなり人間世界で人間と共存できるように適応していることもわかってきました。患者数が減少した現在でも、地域には症状がでないままで、ウイルスがヒトの間で維持されている可能性が高いため、今後も感染源不明の患者が散発し、状況によってはクラスターは発生するリスクがあります。もしも、これが大規模のイベントだったり、大きなショッピングセンターとかで発生すれば、一挙に患者数が増大します。もちろん、三重県内で見えない感染伝播網があるかどうかはだれにもわかりませんが、少なくとも国内の大都市には存在していると思われるので、今後地域間での移動が多くなれば、県外からも入ってきます。つまり、緊急事態宣言が解除されたとしても、このようなリスクが常に存在するということを踏まえた上で生活をしていくということです。これが、新型コロナウイルス感染症専門家会議から提言された「人との接触を8割減らす10のポイント」や「新しい生活様式」を実践していこうということに繋がっています。

これまで日常生活のいろいろな場面で自粛をしてきましたが、いつまでも自粛しては、新しい生活様式すら実践できません。かと言って、未だに地域にはウイルスが存在しているし、他の地域からも入ってくる可能性があるなどと言われたら、余計に気になって前に踏み出せないということもあるかもしれません。しかしながら、このような状況は人類がこれまでに経験をしたことがな